

コオナガミズスマシ

コウチュウ目ミズスマシ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

Orectochilus punctipennis Sharp

選定理由

全国的に生息地が減少している。県内でも1箇所を確認されているに過ぎない。

形態

体長5.5~6.2mm。体型は長楕円形で舟形。体色は黒褐色でやや金属光沢を帯びる。肢などの付属物は赤褐色。上翅の点刻は密で、オスの会合部先端はほぼ直角で先が丸まり、メスではやや斜めで会合端が少し後方に張り出す。頭楯前縁に突起が無く、平坦かあるいは中央部が単に前方へ張り出すに過ぎない。頭部前半のしわ状部は細かく、小点刻をやや密に装う。

国内分布

本州、四国、九州。

県内分布

小松市丘陵部にある河川上流域のツルヨシがまばらに生える水面上で、2004年6月に確認された。

生態

成虫は昼間、石の影に隠れていて、夜間に活動する。水面上を遊泳し、水面に落ちた小昆虫を捕食するとされる。幼虫は水中で捕食生活をし、岸辺で蛹化するとされる。

生息地の条件

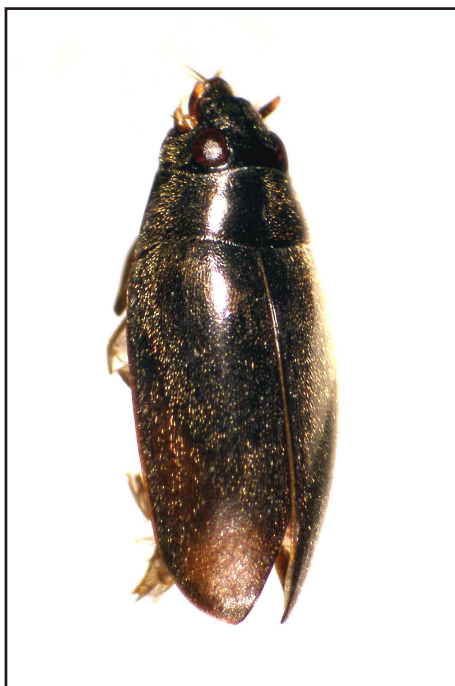
丘陵部の比較的大きい河川の上流域下部~中流部で、川幅5~10mほどの、岸辺が水草で覆われているような環境に生息する。川岸の流れのよどみや、ときには河川敷の水溜まりにも見られるという。

生存の危機

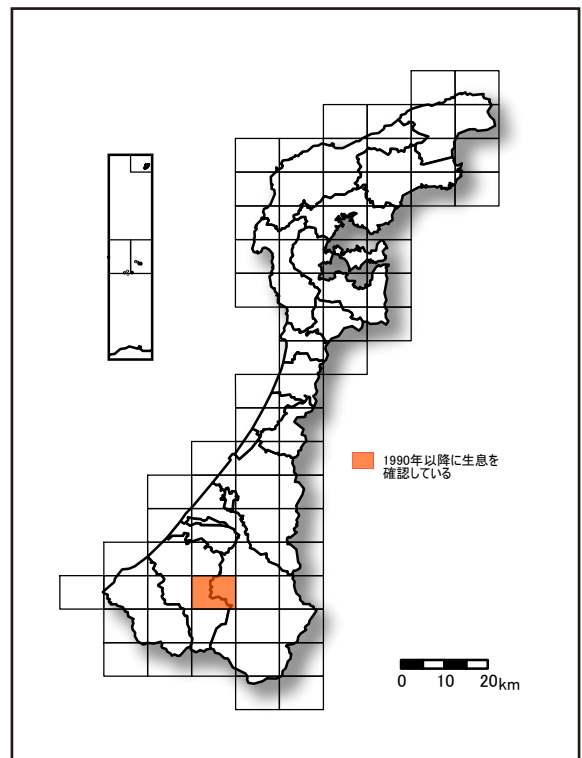
河川中流域の自然の岸辺が、堰堤工事、護岸工事などによって環境改変や消滅することが脅威である。また、生活排水などによる水質汚染にも注意が必要である。

参考文献

佐藤正孝 1977. 日本産ミズスマシ科概説1-3. 甲虫ニュース, (37): 1-5, (38): 1-2, (39): 1-4.
石原一彦 2005. コオナガミズスマシの採集記録. とっくりばち, (73): 30.
佐藤正孝・吉富博之 2005. 鞘翅目. 川合禎次・谷田一三(編). 日本産水生昆虫—科・属・種への検索. 東海大学出版会. 秦野.



標本提供者: 石原一彦



県内の分布